

帰るときは、帰る

北アルプス 不帰岳東面川峰 B 尾根～五竜岳

萩原

【日時】 2015年5月2日(土)～5月5日(火)
 【メンバー】L 田邊、福永、萩原

我々はGW直前になって決めあぐねていた。どこに行くのかを。穂高は黒い。今となつては剣にも行けない。そうだ、不帰に行こう。でも、ここの雪、あるかな。

5月2日(土)

八方尾根ロープウェイを乗り継ぎ、唐松小屋を目指す。登山道はほぼ夏道となっており、大勢のハイカーで溢れている。もうそんな時期か。暑さにひいひい言いながら唐松小屋テント場着。雪の上でなく地面にテントを張れる。

5月3日(日)

前日の偵察の結果、A尾根は雪が繋がってなく、完璧に岩壁が露出しているのが見えたため断念、C尾根はつまらなさそう、ということでB尾根に行くことに。

まずは唐松沢の急な下降を過ぎ、B尾根を見上げる。うむ、黒々としている。雪が繋がっていいのだけど...

取り付きはホントに最初から取り付くただ藪を歩くだけになってしまうので、急になってるところから取り付いた。最初は灌木登りで、次に岩となる。

岩と灌木、我々は本当に雪稜に来たのかの疑う頃、岩峰が切れて雪が出てくる。

今回は岩峰を登りきるときは、先が雪で繋がっているのを祈りながら乗り越えていった。幸い最後まで雪が繋がっていないことはなかった。

雪は全てナイフリッジと呼べるほど積もってはいないので、ところどころカニ歩きのトラバースとなった。



岩、藪がほとんど

なかなか緊張感がある。雪がグズグズなのでなおさらだ。

意外と立ってるように見えるところも難しくなく登れ、自分の中では快調だった。



グズグズ雪トラバース

しかし最後の岩峰だっただろうか。他会の 2014 年 GW の B 尾根の記録で書かれていたのと同じ部分かと思うが、5m ほどのボロボロで雪が全くのついていない岩壁が現れた。かなり焦った。岩は掴むとはがれて持てる気がしない。詰んだかな? と思った。行きあぐねていたなら「撤退するかな」と田邊さん。それは嫌だった。あとちょっとで終わるし、何よりここまでオールリードで頑張ってきたのだから…

行くと決めた。

壁には 3m 右上に灌木があり、それを掴めばなんとか越えられそう。しかしそこまでの足場が左足は氷、右足はこの壁唯一の硬い岩、だがかなり斜度が強い、とこれしかなかった。岩に乗せた右足の下は崖で、灌木に触ってもそのまま落ちたら真逆さまである。一応福永さんにビレイしてもらっているが、最初のランニングは福永さんの足元のスノーバーである。本当に止まるのだろうか。

何度もカラビナがついたスリングを灌木に投げるがダメだった。もう普通に行くしかない。意を決して斜度のある岩に立ちこんだ。すぐに左手で岩を掘り、なんとか手を添えられるほどのホールドを創った。そこで右手で灌木の枝先を掴むことが出来た。抜けないことを祈りながら体重をかけて引っ張り、灌木に腕を回すことができた。しかしここで完全にスタンスが無くなった。木にぶらさがり、半泣きになりながら何とかスリングをかけランニングとし、懸垂の力で乗りあがった。

今回の核心はここだった。

何故こんなよくわからない所で必死になっているのか。

雪がある状態ならこんなないんじゃないのか。

この後、藪を登りピッチを切るが、全員登るのに 2 時間かかった。

かなり時間が過ぎていて焦っていた。だが僕には「あとちょっとだし…」の思いのみで撤退は考えていなかった。ここで急ぐ気持ちとは裏腹にカニ歩きトラバースが入る。時間は無い、でも慎重に行かなきゃここはマズイ…葛藤するがやはり慎重に進み、垂直の雪壁を少し登り、トラバースして灌木に逃げてピッチを切る。

しかし時刻は 17:30。結局ここでセカンドの福永さんが来た後、ラストの田邊さんの判断で C ルンゼに降りてそこから稜線に詰めることになった。

残念だがここで敗退だ。

詰めてる途中で B 尾根を横から見ると、残りは灌木帯をちょっと登って藪を歩くだけだった。およそ 1 ピッチ。惜しかったなあとも思うが、時間をかけすぎたなあ。

もっと早く判断しなきゃいけないかったな。

C ルンゼは問題なく詰めあがって唐松山荘に戻ったが、到着時間は 19:40 だった。稜線歩きはヘッドン行動、もっと時間をかけていたらヤバかった。

5 月 4 日(月)

雨のため停滞。お金を払って小屋で休憩する。

主人に聞いたらここまで雪が少ないのは 20-30 年に一度だと言っていた。

5 月 5 日(火)

前夜の天気は暴風雨と言ってよく、一昨日 10 張はあったテントも私たちだけになっていた。B 尾根の感じからして、午前には雪稜やって午後には下山するというのは無理だと判断し、下山とする。せっかくなので五竜岳をまわって遠見尾根から降りることにした。

遠見尾根には多く雪が残り、まだまだ雪山であった。



核心のボロボロ壁

コースタイムが3～5時間となっていたはずだが、時間がかかりすぎた。

雪がある状態ならもっと早かったとも思うが、それでもコースタイムよりはかなり遅かっただろう。

でも他の記録見ても皆時間かかっているし、あれが早すぎるだけなのかな…

どちらにしてもまた来たいと思う。

しかし、今度はもっと雪のあるときに来よう…



遠見尾根を振り返って

【行程】

5/2: 八方池山荘(11:00)～唐松山荘(15:30)

5/3: 唐松山荘(5:00)～B尾根取付(5:50)～最後の岩峰(14:00)～稜線(18:40)～唐松小屋(19:40)

5/5: 唐松山荘(7:40 くらい)～五竜岳(11:00)～アルプス平(15:30 くらい)

【地図】白馬町



唐松沢はけっこうな傾斜



岩稜の真ん中がルート



五竜岳から小窓尾根パーティの無事を祈って…